

2018年  
No.83  
1月1日発行

# 国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

- 多文化理解講座 in English
- 100年前の小平を体験



## こだいら国際交流フェスティバル

11月26日(日)  
学園西町地域センター

小春日和に恵まれた秋日、こだいら国際交流フェスティバルが開催されました。今年のテーマは「話そう、歌おう、世界の人たちと」です。開会式後1階では早速、世界の歌を歌うイベントが始まり、ギター演奏に合わせて、ロシアの「トロイカ」など皆の知っている各国の歌を歌いました。

歌に続いて、「世界のことばに触れてみよう」では、音楽に合わせて踊ったり、色々な言語であいさつをしたりと、子ども達も喜んで参加していました。これらと同時に、スカイプ交流が進行しており、ベトナム、ブータン、中国の現地の協力者や、熊本地震で被災した留学生と、KIFA高校生ボランティアらが、様々な情報交換をしました。海外との交流は貴重な体験になったのではないのでしょうか。3階では「世界ことば発見」コーナーがあり、外国人が自国の言

語による挨拶などを教えたり、おしゃべりも弾んだり、終始人が絶えませんでした。

このようなテーマに沿ったイベントの他にも、台湾茶、生け花、茶道、折り紙、民族衣装などお馴染みの文化体験がありました。台湾茶では、お茶は天からの恵みで、香りや味をゆっくりと楽しむそうで、自然を尊ぶ文化を感じさせられました。フェイスペインティングは、子ども達に大人気。恥ずかしいと挑戦しない子もいましたが、会場には、ほっぺや手にペイントした子が溢れていました。中庭は恒例の模擬店。昼時は行列ができるほどにぎわい、スパイシーな香りが漂っていました。

5月から実行委員会が準備したフェスティバルは、見て歌い話して体験する、国際色豊かな一日となりました。

子ども連れで  
賑わう  
フェイス  
ペインティング



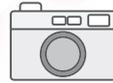
「なかなか丸く  
ならないの～」  
和気あいあいと  
ゆで饅頭づくり



パパも手をつないで  
インドネシア語で  
遊ぼうよ!

色とりどりの折り紙で、  
小鳥や動物などを折るのに夢中

# KIFA 写真館



## こだいら国際交流フェスティバル



「そちらは暑いですか?」ベトナムとのスカイプ中継  
高校生ボランティアがMCで大活躍



笑顔が溢れる「世界ことば発見」  
スペイン語や英語でジョークを交えながらおしゃべり



「行政書士は外国人の頼れるパートナー」  
ビザ等についての法律の専門家が勢ぞろい



「どれにしましょうか?」「いろいろあって迷っちゃうわね」  
本場の味をもとめて・・・

# 多文化理解講座 in ENGLISH

「多文化理解講座 in English」は、国際こどもクラブをヒントに生まれた大人向けの講座で、今年3年目となります。この講座では、あらゆる国の出身者が母語ではない英語で紹介するため、気軽に英語に触れる機会を求める受講者に好評です。タイ編・モンゴル編・多文化編の3回講座のうち2回取材しました。

## タイ編

10月14日(土)



講師は日本社会事業大学の大学院で社会福祉を専攻し、昨年4月に来日したバンコク出身のナッタパトさんです。母国では大学の助教をしており、卒業後はタイでも社会問題となっている高齢化に取り組みたいということです。

講座は国や文化の紹介から始まりました。タイは”Land of Smile”と呼

ばれていて、常に笑顔を絶やさず、仕事も家庭も楽しむ人が多いそうです。挨拶の仕方は数種類あり、ワイという合掌をする際に、親指の位置が、あご、鼻など相手に対する敬意の高さによって異なることを教わりました。また、タイは6つの地域に分かれており、東西南北それぞれの特色や料理、風土の違いが説明されました。

ナッタパトさんは、自身のバンコクでの生活にも触れました。近代的な高層住宅が増加しているなか、築50年の伝統的な家に住んでいるそうです。バンコクの自動車登録台数は、738万台を超え、交通渋滞が常態化しているため、通勤に1時間半かかります。その間に、車内で朝食を済ませたり、電話をかけたり用事を済ませます。昼食は、日本の小さなお弁当とは違い、マーケットや食堂で沢山食べ、夜は家族とレストランで食事をして、帰宅するのは9時ということでした。

次に、タイと日本の福祉事情について比較しました。日本では多くの高齢者が施設で暮らしていますが、タイでは親を老人ホームに入れることは良くないという考えが依然強いそうです。認知症に対する理解が一般に浸透していないため、高齢者も自覚せず過ごしている現状を説明しました。

受講者はタイへ行ったことがある人もない人も、スライドや資料を参照しながら熱心に耳を傾けていました。そして質問やコメントを積極的に投げかけ、講師との交流を楽しんでいました。



●タイ王国 (外務省HPより)  
面積：51万4,000km<sup>2</sup> (日本の約1.4倍)  
人口：6,572万人 (2015年) (タイ国勢調査)  
首都：バンコク  
民族：大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等  
言語：タイ語  
宗教：仏教94%、イスラム教5%

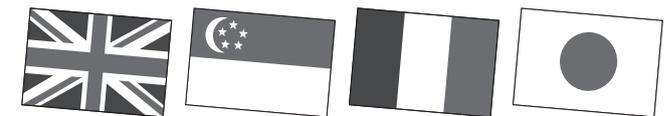
## 多文化編:イギリス、シンガポール、フランス、そして日本へ 10月28日(土)

第3回目の講師は、一橋大学大学院で政治学を専攻している高橋脩さんです。スクリーンで様々な写真を紹介しながら話す流暢な英語に、17名の参加者は熱心に耳を傾けていました。高橋さんのご両親は、ともに日本人です。ご両親とは日本語で、お兄さんとは英語で会話をされるバイリンガルですが、英語のほうが言いたいことが言えるそうです。

高橋さんはイギリスで生まれ、小学校まで過ごしました。ヘンリーというミドルネームも持っています。



そして、中学校と高校はシンガポールのインターナショナルスクールで過ごしました。ここでは色々な国の生徒がいるのが当たり前で、とても居心地が良かったそうです。そして、4歳から親しんできたバイオリンでオーケストラにも参加しました。その時味わったのが「チームワークの面白さ」です。最初に個々の楽器ごとに音を合わせ



てから、全体で揃えていきます。高橋さんは指揮者と楽団をまとめるコンサートマスターという役割も任せられ、とても充実した日々を送りました。

その後、フランス北西部にある大学へ進みます。親元を離れてはじめての一人暮らしに戸惑い、治安の悪さやアジア人としての人種問題なども感じました。一方、歴史的な建物や美術館を巡ったり、友達と旅行するのが楽しみでした。

そして交換留学生として来日、ISDAK(小平国際学生宿舎)に入居します。日本に実際に住むのは初めてで、日本独特の文化に戸惑うことも沢山ありました。そんな時、寮のサポート役であるRA(レジデントアシスタント)などに助けられたので、今度は自分が恩返しをしたいと思い、一橋大学大学院生となった現在はRAの班長をしています。卒業後は日本で広告系の仕事に就く予定の高橋さん。これまで「多文化」の中を生きてきた経験と、気さくで柔らかな人柄に、受講生たちは大いに魅了されていました。

## 100年前の小平を体験

11月19日(日)

「小平ふるさと村」で昔の遊びや、うどん作りを体験する外国人対象のツアーが初めて開催されました。雨天順延になり参加人数を心配するも、晴天に恵まれ、留学生や小平に在住の外国人家族など、17名が小平駅へ集合しました。

ゆっくり散策しながら、グリーンロード沿いに並ぶ彫刻家・齋藤素巖の作品の説明をガイドさんから受け、また沿道に咲く秋の花々の香りを満喫しつつ、ふるさと村へ向かいました。

水が乏しかった小平は、江戸初期の玉川上水の開通がきっかけで開拓が始まり、江戸の近郊農村として開発され、そして現在の小平市に発展していることを知りました。

360年前の開拓当時の復元住居や江戸後期の住まい、また明治時代の郵便局舎など、係員の「やさしい日本語」での説明に興味深く聞き入っていました。旧神山家住宅主屋には、かまど、飯炊き釜、脱穀機などが残されており、当時の生活道具に直に触りながら、昔の生活様式をイメージしていました。



いよいよお昼時にはうどん作り体験とその試食となりました。うどん踏みには子ども達や留学生も参加し、足でのうどん粉練りの感触を実体

験しました。うどんの試食は美味しくて一杯ではならず、おかわりする参加者も出るくらいでした。昔の遊びではコマ回しや竹トンボを、教わりながら挑戦しました。

最後は「ふりかえり」の時間です。今回の体験ツアーに満足し、また来てみたいとの声が多くありました。次回は友人を誘いグリーンロードを更に先まで足を伸ばし、四季折々の光景を小平の思い出の一つにしては如何でしょうか。



## これからの行事予定

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| ◎餅つき・新年交流会         | 1月13日(土) |
| ◎外国人対象「小学校生活ガイダンス」 | 2月3日(土)  |
| ◎こだいら市民駅伝大会        | 2月4日(日)  |
| ◎世界の料理(ブータン)       | 2月22日(木) |
| ◎おもてなし語学ボランティア養成講座 | 2月24日(土) |

※詳しくはKIFAミニレターおよびHPをご覧ください。

## フェスティバル準備風景 学園西町地域センター

年に1度の国際交流フェスティバルを行うにあたって、事前の準備も、ボランティアによって様々行なわれていました。

例えば「世界の歌」は、フェスティバル6日前に担当ボランティア4人が集まり、リハーサルを行いました。スクリーン



の設定を確認し、実際に何度も何度も歌ってみて、キーの高さを参加者が歌いやすい高さに変更したりなど、本

番がうまくいくように、入念な練習が行われていました。

また、フェスティバル当日に階段の壁一面にぎっしり貼られた行事の紹介も、ボランティアによる事前準備の1つでした。この1年間KIFAで行っていた様々なイベントを参加者に知ってもらえるよう、機関紙グループメンバーが集まり、大きな模造紙10枚を使って作ったものです。写真は、これまでの取材や事務局で撮影したものから選び、イベントの順番と配置を考えながら、作成していきました。

KIFAではこれからも様々なイベントを予定しています。ボランティアでも、参加者としてでも、皆様のご参加をお待ちしております！

## 編集後記

KIFAに関わるようになって、はや3年。大きな夢を抱いて日本で学んでいる留学生や、母国を離れても家庭を明るく支えている女性などに沢山の出会いがありました。想像以上に困難は多いはずなのに、前向きに笑っている姿勢には、いつも感心させられます。私自身は大志を抱いて…というわけにはいきませんが、身近にできることから、少しずつ、やっていけたらいいなと思っています。(C.H)



発行日 2018年1月1日  
発行 小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ

〒187-0045  
小平市学園西町2-12-22  
学園西町地域センター 3階  
TEL. 042-342-4488  
FAX. 042-347-3003